

貸借対照表 (2024年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部	
科 目	金 額
流動資産	32,920
現金及び預金	17,768
売掛金及び契約資産	12,586
電子記録債権	270
商品	1,256
仕掛品	636
貯蔵品	1
前払費用	385
その他	36
貸倒引当金	△21
固定資産	10,047
有形固定資産	5,726
建物	1,869
構築物	21
車両運搬具	8
工具、器具及び備品	334
土地	3,493
無形固定資産	320
ソフトウェア	33
ソフトウェア仮勘定	209
のれん	58
その他	19
投資その他の資産	3,999
投資有価証券	758
関係会社株式	298
会員権	86
長期前払費用	101
敷金及び保証金	1,068
保険積立金	269
繰延税金資産	1,323
その他	105
貸倒引当金	△12
資産合計	42,967

負 債 の 部	
科 目	金 額
流動負債	7,891
買掛金	3,639
未払金	555
未払法人税等	709
未払消費税等	451
未払費用	727
前受金	190
預り金	294
工事損失引当金	13
賞与引当金	1,303
その他	5
固定負債	2,604
退職給付引当金	2,418
役員退職慰労引当金	2
資産除去債務	184
負債合計	10,496
純 資 産 の 部	
株主資本	32,454
資本金	5,500
資本剰余金	86
資本準備金	86
利益剰余金	26,869
利益準備金	911
その他利益剰余金	25,958
別途積立金	4,500
繰越利益剰余金	21,458
自己株式	△1
評価・換算差額等	17
その他有価証券評価差額金	17
純資産合計	32,471
負債及び純資産合計	42,967

(注) 記載金額は表示単位未満を切り捨てて記載しております。

損益計算書 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

科 目	金	額
売上高		48,084
売上原価		38,532
売上総利益		9,552
販売費及び一般管理費		3,868
営業利益		5,683
営業外収益		
受取利息	27	
受取配当金	0	
為替差益	15	
受取賃貸料	59	
その他	32	134
営業外費用		
債権売却損	0	
災害損失	1	
その他	0	2
経常利益		5,815
特別利益		
固定資産売却益	88	
投資有価証券売却益	135	224
特別損失		
固定資産除却損	32	
固定資産売却損	1	
減損損失	63	96
税引前当期純利益		5,944
法人税、住民税及び事業税	1,478	
法人税等調整額	279	1,758
当期純利益		4,185

(注) 記載金額は表示単位未満を切り捨てて記載しております。

株主資本等変動計算書 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本								株主資本 合 計
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金		自己 株式		
		資 本 準備金	資 本 剰余金 合 計		その他利益剰余金	利益剰余金 合 計			
				別途積立金	繰越利益 剰 余 金				
当期首残高	5,500	86	86	821	4,500	18,256	23,578	△0	29,163
当期変動額									
剰余金の配当						△893	△893		△893
剰余金の配当に伴う積立				89		△89	-		-
当期純利益						4,185	4,185		4,185
自己株式の取得								△0	△0
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	89	-	3,201	3,291	△0	3,291
当期末残高	5,500	86	86	911	4,500	21,458	26,869	△1	32,454

(単位：百万円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	98	98	29,261
当期変動額			
剰余金の配当			△893
剰余金の配当に伴う積立			-
当期純利益			4,185
自己株式の取得			△0
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	△81	△81	△81
当期変動額合計	△81	△81	3,209
当期末残高	17	17	32,471

(注) 記載金額は表示単位未満を切り捨てて記載しております。

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

① 子会社株式

移動平均法による原価法

② その他有価証券

イ. 市場価格のない株式等以外のもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

ロ. 市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産

① 商品及び仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

② 貯蔵品

総平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、以下のものについては定額法によっております。

1)1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）

2)2016年4月1日以降に取得した建物附属設備、構築物

3)アウトソーシング事業に関連する建物附属設備、工具、器具及び備品

主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 7～50年

車両運搬具 4～7年

工具、器具及び備品 3～20年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

均等償却しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当事業年度に対応する額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異については、主として各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結計算書類における会計処理の方法と異なっております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金制度は、2007年5月17日開催の取締役会において、2007年6月28日をもって廃止することを決議したことにより、制度廃止日以降繰入を実施しておりません。従って、当事業年度末における役員退職慰労引当金残高は、当該決議以前から就任している役員に対する2007年6月28日時点における要支給額であります。

(5) 工事損失引当金

受注制作のソフトウェア開発のうち、当事業年度末において工事損失の発生の可能性が高く、かつ、その金額を合理的に見積もることが可能なものについて、その損失見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、主にシステム構築サービス及びシステム保守運用サービス、システム機器販売に関する契約から収益を認識しております。

システム構築サービスでは、一定期間にわたり充足される履行義務かどうかを判断し、当該履行義務に該当しないと判断した場合は一時点で充足される履行義務として顧客による検収時に収益を認識しております。開発中のシステムにより他に転用できる資産が創出されず、かつ、完了した作業に対する支払を受ける強制可能な権利を有する場合に一定期間にわたり充足される履行義務と判断し、履行義務の充足に係る進捗度に基づいて収益を認識しております。この進捗度の測定は、完成までに要する総原価を合理的に測定できる場合には見積総原価に対する実際原価の割合（インプット法）によっており、合理的に測定できない場合は、実際原価のうち回収されることが見込まれる金額で収益を認識しております。なお、完全に履行義務が充足されると見込まれる時点までの期間がごく短い契約については代替的な取扱いを適用し、一定期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足し時点で収益を認識しております。

システム保守運用サービスでは、主として各種システムを利用可能な状態にしておくサービスであり、通常は契約期間にわたって履行義務が充足されるものと判断していることから、サービスの提供期間にわたり収益を認識しております。

システム機器販売では、顧客への引き渡し完了し検収を受けた時点で支配が顧客に移転したと判断し、収益を認識しております。

履行義務の対価は、履行義務を充足してから通常1年以内に受領しており、重大な金融要素を含んでおりません。

5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、効果の発生する期間を合理的に見積り、当該期間にわたり均等償却しております。

(会計方針の変更に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更に関する注記)

(貸借対照表関係)

前事業年度において区分掲記しておりました投資その他の資産の「長期未収入金」(当事業年度5百万円)については、金額が僅少となったため当事業年度においては「その他」に含めて表示しております。

(損益計算書関係)

前事業年度において営業外収益の「その他」に含めておりました「受取利息」(前事業年度1百万円)、「為替差益」(前事業年度10百万円)については、重要性が高まったため、当事業年度においては区分掲記しております。

前事業年度において区分掲記しておりました営業外収益の「仕入割引」(当事業年度4百万円)については、金額が僅少となったため当事業年度においては「その他」に含めて表示しております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額	7,427百万円
2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務	
短期金銭債権	20百万円
短期金銭債務	392百万円

(損益計算書に関する注記)

1. 関係会社との営業取引による取引高	
売上高	125百万円
仕入高	1,868百万円
業務委託費他	222百万円
2. 関係会社との営業取引以外の取引による取引高	
受取賃貸料、雑収入	61百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度末における自己株式の種類及び株式数

普通株式 586株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産の発生的主要原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	10百万円
減損損失	1百万円
未払事業税等	77百万円
賞与引当金等	463百万円
退職給付引当金	740百万円
資産除去債務	56百万円
未払金	62百万円
その他	12百万円
繰延税金資産小計	1,423百万円
評価性引当額	△69百万円
繰延税金資産合計	1,354百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△7百万円
資産除去債務に対応する除去費用	△23百万円
繰延税金負債合計	△30百万円
繰延税金資産の純額	1,323百万円

(関連当事者との取引に関する注記)

関連当事者との取引

計算書類提出会社と関連当事者との取引

1. 計算書類提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権の所有又は被所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員およびその近親者が議決権の過半数を所有している会社	株式会社ナカヤ	東京都渋谷区	30	不動産賃貸業	なし	建物の賃借 役員の兼任 1名 役員 の近親者 1名	賃借料の支払	739	保証金	558
									前払費用	67

2. 子会社

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(百万円)	事業の内容又は職業	議決権の所有又は被所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
子会社	N S S 株式会社	東京都渋谷区	200	エンタープライズソリューション、サービスソリューション、エンベデッドソリューション、デバイスソリューション	(所有) 100.0	当社開発業務の一部の委託	開発業務の委託	1,848	買掛金	345

- (注) 1. 株式会社ナカヤは、当社の主要株主である多田修人が議決権の82.3%を直接保有しております。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等は以下のとおりであります。
(1) 賃借料は、近隣の相場を勘案し、双方協議の上、決定しております。
(2) 開発業務の委託は、交渉の上、一定の採算が確保されるように取引条件を決定しております。

(収益認識に関する注記)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結注記表の「収益認識に関する注記」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(1 株当たり情報に関する注記)

- | | |
|---------------|-----------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 2,179円40銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 280円90銭 |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

該当事項はありません。